

天
明
二
年
壬
寅

歲
旦

閑
花
林





あつ〜へたぬ

雪晴日流始 平砂

蓬萊の山々を仰ぐ蒼鷹の雄
 あり深岩たすむる。と異ちふれぬ
 茄子代食果日用の變化自在と洞室
 ちて出づるの相を畫せし
 んや。古云三つを以ては中枝
 枕を積む詠諧乃寂をも謂ひ
 る〜や
 まつ夢やもすいこのそむ
 一思案 全

其引

柔佳菴

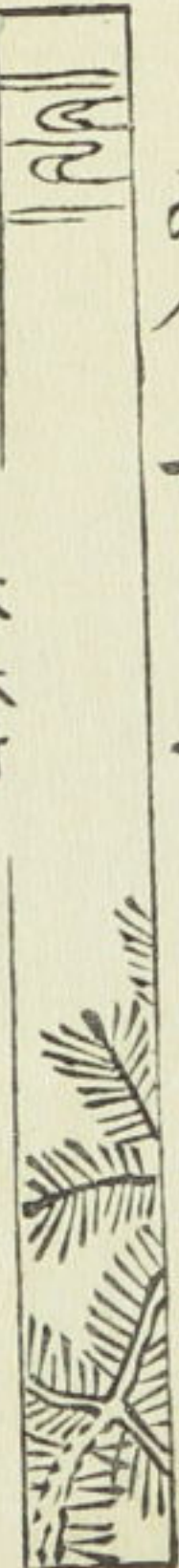


歳旦 山花房

初春や先未廣ふけ 昆布 百砂
 名教を傳ふ小兒なを年む 平砂
 松の枝樹み海へ東風交て 東寓

春興 辛丑歳暮

梅の香の袖引ぬるは柄う分 百砂
 うしは尾もいつ趣も除夜の袴 同



歳旦 歳暮附

青陽の今あつたまる初日かな 馬陵

孫と右左月抱きて

かき子の粒に残け正年入る 全





桑

起て今もあやふし神と人 菅雨

一日と暮る惜りあはきり 全 八虎

元日也起ると恵む秋の挽 全 八虎

掛と子孫とと暮る大冊日

二年家業の繁栄ありしゆ
世の乃た地まうに寿久

海老と鰻守り時あり門飾 全 井花

新とあす人の世も一年の事

あすの世もあすの世も二十心 全 箕山

去老ても二又買りりまら市

あふふあふくあふの字扇 全 為文

懸一と年糟一粕

大名は公をいかにの喜 全 砂曉

け中ふよく名付りり手やされ

黄色の羽ふりて 柳 砂迪

乃高は茶器の疾りやまの市

分てよき初日代本や金花山 全 富砂

袴着て堅く酔日もはきり

元三の添て和む目出こと 全 餘昔

買ひたり雲く狩りりまら市

三才代もみちくや明乃真 全 中固

糸切てほあきりる乃師走

かつと行く息のきりや初日 全 平素

厄落しよき彼落せむらもや

船人の恵方にあそ家代表 全 川旭

の棚や出入大工のりり令せ

志る可也難黄地著と二柱 全 連砂

餅花や師走の風もあきり

三

春里

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅



春里
全
砂月
全
平吳
全
栗佳
全
龜民
全
和喬
全



度秋
全
其朴
全
瀉水
全
李明
全
暮青
全
祇孫
全
井蟲

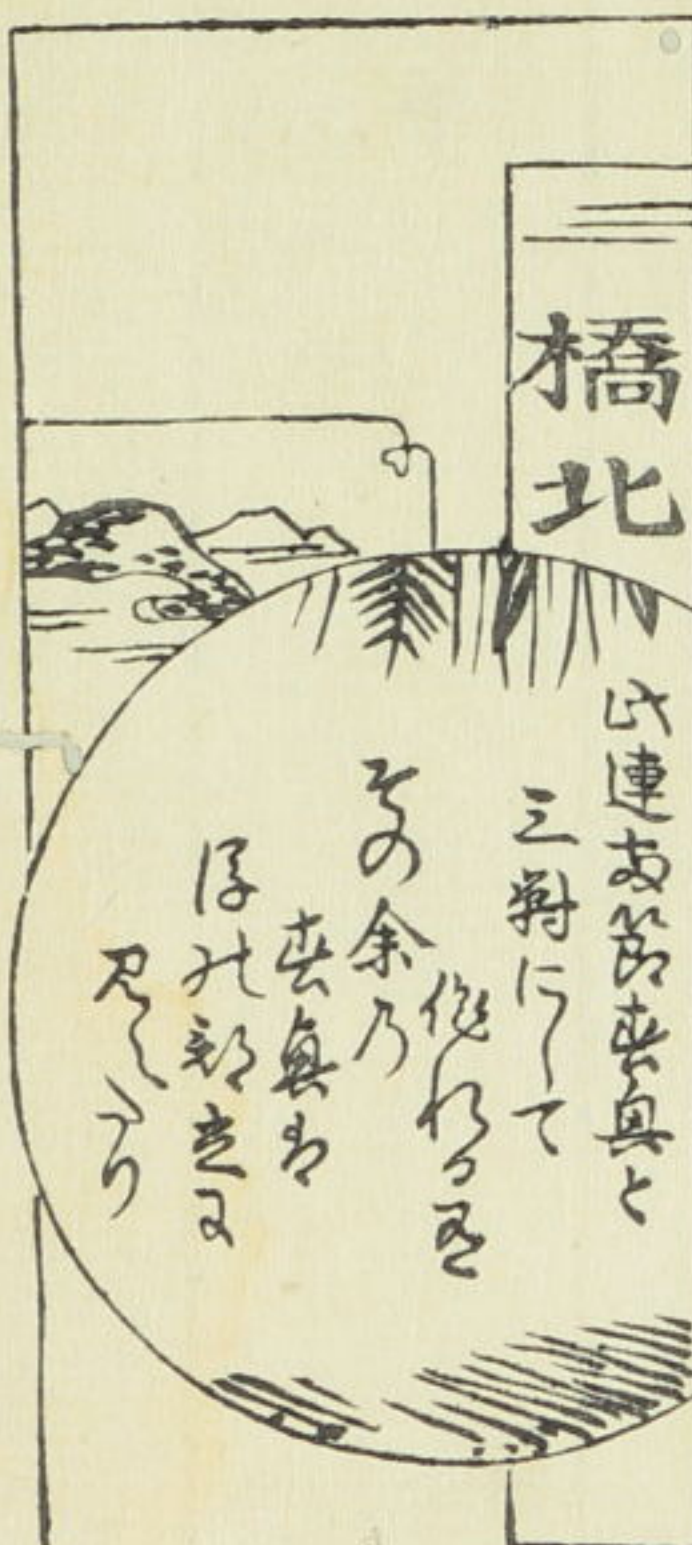
投込てゆくときも一かゝり
一と名のり本や門乃出入札
定雲
柯貞



松島紀行の志るる

初空やむしを目為り旅馬
平汐
蝶の目小刺やおおげれ蒼まてと
全
門松乃玄関りう律日且哉
文龜
春を待是も果報の一炊く乳
全
菊歳の声おわあや初日乃出
三好
よ一何れ有無も更に大胸日
全
いさきよ地不盡の粧ひやとおれ喜
平賀
垣引のすこき本も年乃波
全
さうれたる極形色や江戸の喜
山學
羽帯八屋縮子巻へ焼もくし
全

貧穢も同し心や今銅の喜
如龜
春を待留る化粧と重たき
全
定(金)心嫁目利ちよ花の春
全
ちるもや留士と志高き大胸日
全
神くも商するや宝 船
梅砂
光陰の矢をく櫂牙や重た波
全
初空よあかひ静たりの時々岡
砂明
龜の背まこく後継もや年乃山
全
双六の春のほめや日本橋
平徳
樽酒の月日を笑ふゆき
全



橋北

山連あがれ奥と
三軒行て
おれわるる
その余乃
虫真わ
ほれ初き
又いり

門松を千里の萩やせうた杏 田人
 長栄とや初寅詣鞠るる乃 全
 角垢子ハ浴をわけて年の春 全
 初日影大門をかくやある 祇川
 物学ハ何内海ハあやういぬ 全
 松人をお思ふくむまの暮 荅志
 師走倉小窓翁の光ハ 全
 屯まらんと外不欲きく日持喜 鱗甲
 商人の海を北陸やそあ繁 全
 為琴本松のたまお色や松飾 寛之
 さ地竹乃む然や東の南向 全
 申くまは竹志ふたや一也飾竹 全
 元朝ハ竹を命ふた夕哉 五深更
登南華樓上偶成 手の扱や金松釜を振るころり 全
午涼

甲申歲旦園南書屋

神舎に松乃高や助の夷 其樹
 引子に師走の錢を滑川 全

春興

各句韻の字を以ていろはに按てよ
 仍て同約を冠字を以て同く候す

梅はくや短冊のする麻老 度秋
 陽炎の飛く路や梅もこ 苔反
 雪も何垂り分梅の宿 中固
 梅草れ女小笠ハなかり多也 李の
 杉のひられ猿曳の子乃ままり 鱗甲
 むめ暖ぬ谷七郷も垣鏝 馬凌
 梅は久や畔に楊枝れこむ松 連砂
 風はくわまの長流の枝を柳哉 春里
 流と本が友さむいり煙る子 其樹
 鶯小毎朝来下菜賣ハ 砂曉

目不及たけの幾物物か形 平吳
 簞笠ハ公小笠して着葉哉 為女
 妻約哉ちの幼きせんちから 其朴
 多ぢくぬ夕や梅を昇る月 龜
 う不澄や陸も舟のみはけしめ 箕山
 きでしめんは嘆も又う 樹屋々梅 午涼
 嘗の本末ハ言し今戸橋 祇川
 船既も取織着て漕梅尺式 蒼志
 抄られて嘗た居眠る柳のうら 文龜
 書子倦るうちあてえれを梅志 首善
 名よや梅くら尺出寸一ツ星 文詞
 目利きる雛卵も梅の思きさ 鯉天
 汲でらん梅さる庭に枯棹 甫卜
 歳旦 進初れあかして重なる際く乳 哥久

歳旦 うら子未武元矢倉乃
 隈宅了移也
 ちりその空とむふ
 多行り美入文字の居りや宿徳言 楓橋
 茶に福壽坊近くせと召 平砂

春興
 多吟南程し可等柳の形 楓橋
 歳暮
 互のやまま礼お違ふ可同

歳旦 たきまはるを無恒る事之先は
 月は見日兄梅の一二輪 栖礎
 年波北人もめりり代秋傳國 全
 光るより仲人を誰屯の喜 佐國
 か若ろふ目まて尺の存乃交 全
 あらしと紅屋は指く阿是が 全

きく梅ちあはれまを窓の枝 暉牛

大羊の世不睡ぬ務も有り 全

橘の可くしこそ梅の香 亞提

羊の角小垂を容るる日あふ 全

御代乃き弓の袋物かし屋南宮 東岳 西木

あこを成評と作きてん箱の梅 全

人はいと一流通れりて開 全

熨斗目多て開く扇の日の出 如松

竹林を群合とせしり笑 全

歳暮 廻文

六 花 綿 繰 管 繩 紡 德英

むつのもをいんくるくあふおもてけむ 社中 平丈

松檜本との匂ひや花乃夷 社中 平丈

子合とあ付りしき 全 平丈

あすみつる日の待宵や大晦日 沾山

二五



試筆

不二筑波總合せありそ川霞 雪井 一斗菴

入江輪小なる舟の夢結道 平砂

春興

子たろろ乃をみそ物風巾 雪井

守歳

芽やむよいそくしもの梅柳全

梅の香小葉焚烟ふせよ 範路

佳依娘の翠簾掛けり柳分 柳零

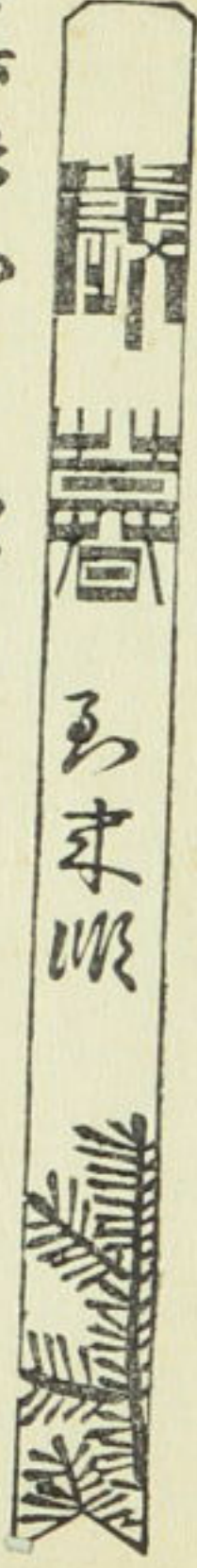
歳旦

あやけり了ふ初日の大 鏡 歴翁

葛根松と我屋穂乃折取 平砂 平砂

ゆく年や足る苦さなりんを 歴翁

神農のまゝ函固や福寿子 井義
於う包葛藤もたつこんうる



煤掃や半日松り折炬存 丁東

福子小三つま付敷やまの豆 栖洲

衣くのほろも出さすうらねぬ 塵匣

松吹や門此調子も十二月 白抄

菜のむかふ勢那流北河をが 冲谷

猿樂乃乃の三日やとー忘 秀億

申くろ也少し能ふ水の略 牛吞

山 六の所を多く手薪うたの 東寓

局尾

彷彿と雲を借むと八座安形 平砂

師またりさう一国の梅雨り瞞 全

天明二年壬寅正月出 江南利助彫刻

